



# 栄養士

管理監督者

担当課長～

30年目以降  
(50代前半～)

グループリーダー   
主任主査級

(上席栄養士 等)

25年目程度  
(40代後半～)

サブリーダー   
主査級

(主査栄養士 等)

20年目程度  
(40代前半～)

中堅   
主任級

(主任栄養士 等)

15年目程度  
(30代中盤～)

若手   
栄養士

2～14年目程度  
(20～30代中盤)

新人   
新採用  
1年目

主な配置先：保健所、本庁（保健福祉部等） 等

県職員としての土台づくり。  
知識経験をしっかり吸収。

様々な分野を経験。実務  
の中核として活躍。

視野を広げながら担当業務  
を推進。後輩もフォロー。

幅広い視野で業務を推進。  
チームの要として活躍。

チームを引っ張り、県  
の政策・施策を立案。

豊富な知識・経験で  
組織をマネジメント。

- ・ 公衆栄養の視点を学び、行政栄養士業務の基本の習得
- ・ 担当課の業務を理解し、組織の一員としての役割を果たすことができる力
- ・ 担当業務を通じた市町村や地域の関係者との関係性の構築

- ・ 担当業務を中心とした地域の健康課題の把握
- ・ PDCAサイクルを意識した業務の遂行
- ・ 法に基づく業務（国民保健・栄養調査の実施や特定給食施設指導）の的確な実施
- ・ 住民組織や関係団体と連携した公衆栄養活動の企画立案、交渉、事業実施

- ・ 地区診断による健康課題の明確化と優先順位をつけた施策実施
- ・ 管内市町村や関係機関の取組状況等の把握と必要に応じた支援
- ・ 庁内や地域の関係者と連携した公衆栄養事業の的確な遂行
- ・ 予算・業務量・体制の調整を行いながらの計画立案

- ・ 関連計画の進捗管理に関わり、必要な栄養施策を提案
- ・ 地域の関係者や庁内関係部局との連携、ネットワーク体制の構築、成果を重視した事業の展開
- ・ 地域の社会資源の開発及び積極的な活用
- ・ 調査研究の事業企画への反映

- ・ 県民計画や関連計画の策定、見直し、県栄養施策推進の中核的な役割の担当、成果を上げるための業務展開
- ・ 幅広い視野を持ち、経営的な視点でチームのマネジメントを補佐
- ・ 組織方針の中で栄養施策を実現するための政策の方向性を提案、関係者との合意形成

- ・ 管理監督職として所属職員や事務事業をマネジメントする能力
- ・ これまでに培ってきた専門分野の知識・経験等を踏まえた高度な能力（説明・交渉・調整力、判断力、指導力、分析力）の発揮
- ・ 人材育成能力

## 若手職員の配置

基礎的な技術・知識を習得するため、先輩栄養士とペアを組み、保健所での公衆栄養業務を経験。保健所や本庁での公衆衛生・公衆栄養の実務を経験しながら、専門性を養成。

保健福祉部会計事務研修会

新人行政栄養士研修会

行政栄養士研修会

【外部】公衆衛生全国新任者研修

【外部】全国公衆衛生実務研修

【外部】保健医療科学院短期研修（地域保健分野・統計情報分野）

【外部】保健医療科学院長期研修 専門課程（地域保健福祉専攻）

【外部】JDA-DAT災害支援スタッフ研修

【外部】JDA-DAT災害支援リーダー研修・DHEAT研修・災害対応研修

【外部】日本栄養士会生涯教育（領域別）・日本公衆衛生学会等公衆栄養関連学会（公衆衛生認定管理栄養士・公衆衛生専門管理栄養士の取得）

育成方針：職場を離れて受講する研修（off-JT）に加え、日常の仕事を通じた上司・先輩からの指導（on-JT）や自主的な学習・研鑽（自己啓発）を組み合わせる育成

注1：各職位の目安（○年目）は大卒程度を想定したものです。 注2：研修のうち太い枠線のあるもの（着色されているものは）必修研修であることを表しています。

キャリア

必要な知識・能力・役割

職員育成（主な研修）